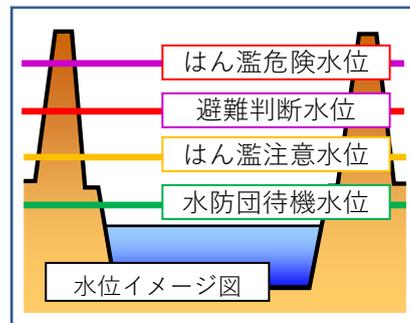


肱川（宇和川）野村ダム下流域が水位周知河川に指定されました

5月14日（火）に令和元年度愛媛県水防協議会が開催され、肱川（宇和川）野村ダム下流域（新天神橋上流500mから権現橋（荷刺）下流500mまで）が水位周知河川に指定されました。西予市では、同河川の宇和町大江から皆田までの流域に次いで2番目の指定となります。

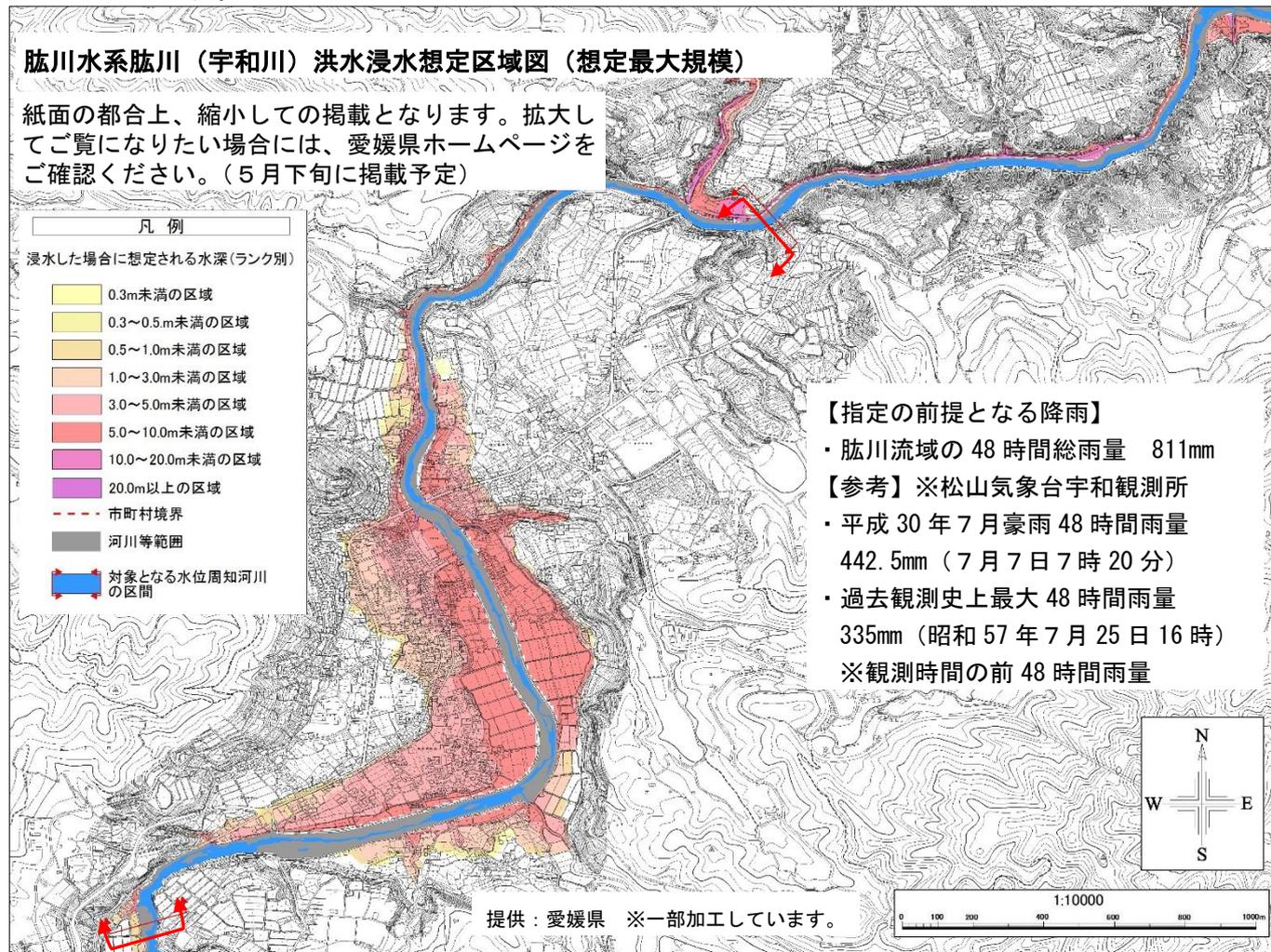
このことにより、愛媛県は指定流域における河川や周辺の地形を測量して、観測所である荒瀬水位計でどの程度の水位に達したときに河川の様子がどうなるのかなど検討し、避難勧告を発令する目安となるはん濫危険水位等を決めます。今後、西予市では、出水期（6月中旬）までに、これにもとづいて避難に関する情報等を発令するための基準を定めていきます。



洪水浸水想定区域図（想定最大規模）の公表

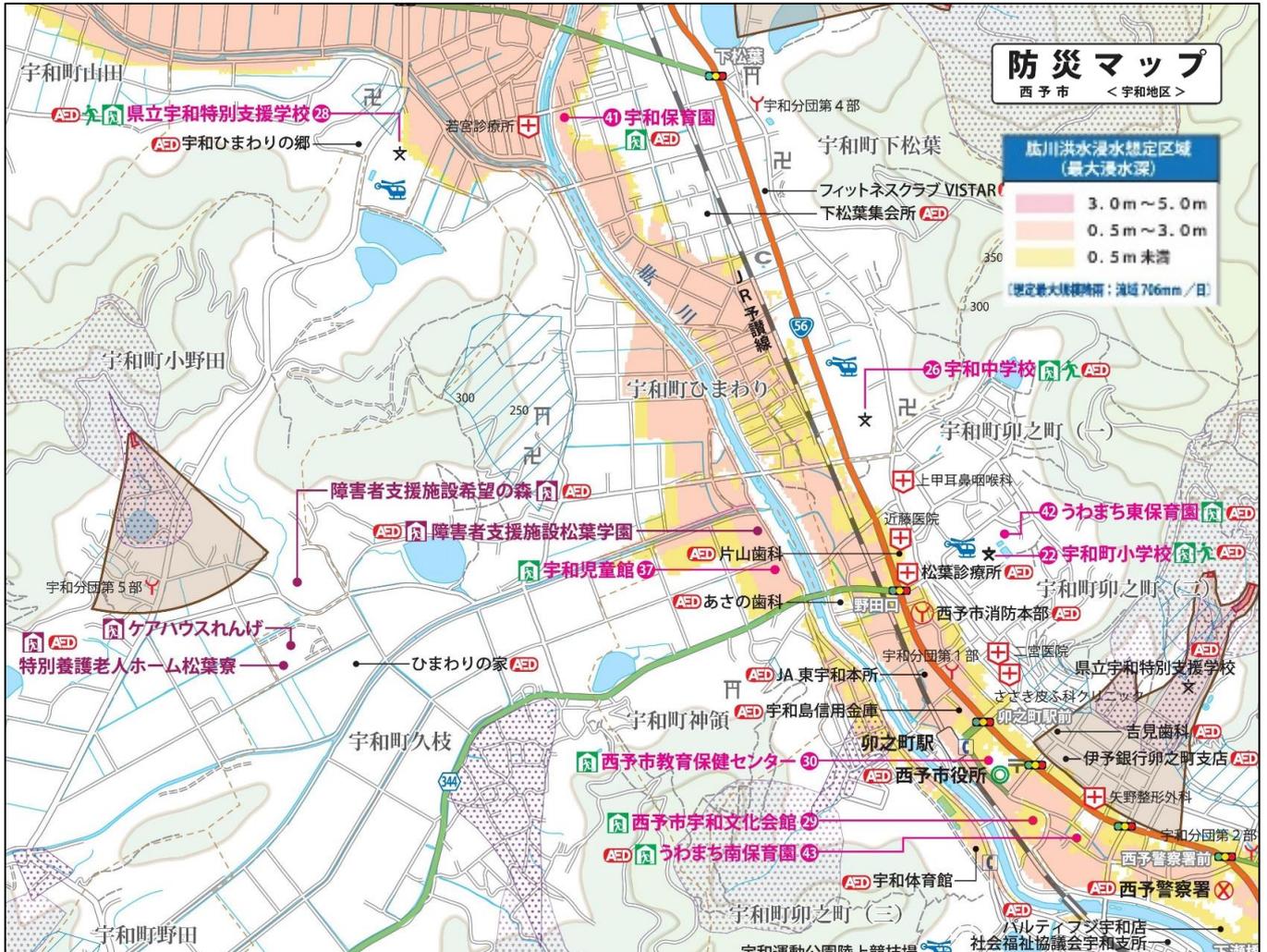
あわせて、水害による被害軽減を図るため、想定しうる最大規模の降雨により河川がはん濫した場合に、浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定し、洪水浸水想定区域図として公表されます。なお、このことにより建築規制等が伴うものではありません。

以下に、愛媛県から提供された洪水浸水想定区域図を掲載しています。想定にあたっては、48時間811mmという降雨を前提としています。想像を絶する降雨量ですが、平成27年関東・東北豪雨災害では、栃木県日光市（五十里）では24時間雨量：511mmを観測し、鬼怒川の堤防決壊が発生するなど、非現実的な気象現象が現実的となることを想定し、避難経路等を検討しておくことが必要です。



肱川（宇和川）野村ダム下流域防災マップを作成します

西予市では、洪水浸水想定区域図をもとに防災マップを作成し、年内をめどに野村地域内の全戸に配布します。以下は、既に公表されている宇和地区における洪水浸水想定区域図をもとに、作成した防災マップの一部になります。防災マップでは、想定される浸水範囲を示すとともに、避難所の場所や災害時に役立つ施設に関する情報等を掲載します。（西予市ホームページに掲載しています。）



野村地区におけるタイムライン（防災行動計画）を作成します

本年の出水期までに、野村地区におけるタイムラインを策定します。タイムラインとは、災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する最悪の状況をあらかじめ想定し、共有した上で、「いつ」「誰が」「何をするのか」に着目し、市民が安全に避難するための行動や主体を時系列で整理したものをいいます。現時点では、行政機関を主とした防災関係機関が主となって検討をすすめています。今後、その範囲を徐々に拡大し、幅広く市民の声を伺い、より確実性の高いものとするをを目指します。

本年の出水期に向けた野村地区での対応について、準備が整い次第、説明会を開催いたします。

タイムラインイメージ

